



## 沖縄で 2×4 パネル工場を運営 カナダ産 OSB で材料を安定調達

木造住宅の需要が高まる沖縄で 2×4 パネル製作を行っているエッジは、沖縄の風土に合った住宅づくりに取り組んでいる。カナダ産 OSB を壁、床、屋根と全面的に採用して材料を安定調達し、コスト競争力のある高品質の住宅づくりに寄与している。



工務は 8 人体制で、名護ファクトリーでのパネル製作から建て方、時には基礎工事も手掛ける

### 雨が多い沖縄で一日でも早く建て方を終えるために

伝統的にコンクリートの住宅が選ばれてきた沖縄で、木造住宅の人気の年々高まっている。沖縄では東京オリンピックの影響で職人が不足し、RC 造の建築コストが上昇して一次取得者層が手を出しにくくなってきた。相対的にコスト競争力が向上し、工期も短縮できる木造住宅が見直され、近年では着工戸数の 3 割ほどを占めるまでに成長している。沖縄の木造住宅のほとんどは在来工法だが、2×4 工法の経験がある秦康展社長がその利点を理解していたことから、同社は 2×4 住宅に取り組むことにした。

しかし、沖縄で 2×4 を手掛ける会社は少なく、慣れた大工だけでなく材料の入手すら困難なほど。現場組みで建てていたのが躯体が雨に濡れることも多く、木材の変色や床の水たまりを不安に感じる建て主もいた。雨や台風が多い沖縄特有の気候やシロアリへの対策を模索するなかで、建て方を一日でも早く終えて防水処理を行う重要性を痛感する。そこで、2×4 の強みでもあり現場作業の時間を短縮できるパネル化に取り組むこととなった。

### 安価で強く扱いやすいカナダ産 OSB

4 年前から工場の一角を借りて手組みでパネル製作を開始、その後規模を拡大して機械を導入し、本格的にパネル工場を立ち上げた（名護ファクトリー）。現在では月 4～5 棟ほどのパネル生産能力を有し、自社施工分のほか、他社への供給も行っている。

沖縄では材料の確保が難しく、面材も針葉樹合板の 3×6 サイズしか入手できなかった。壁に一枚で施工できる 3×8 サイズの面材を探していたところ、徳島県の大和木材から供給を受けられることになった。これを機にカナダ産 OSB を全面的に採用、現在は壁に 9mm 厚 3×8 サイズ、野地に 12mm 厚 3×6 サイズ、床には一階床 (24mm 厚) と二階床 (15mm 厚) の 3×6 サイズを使用している。「カナダ産 OSB は合板以上の性能で、カナダから直接、沖縄県に入荷しているので安価におさえられています。多少の雨に濡れても大丈夫で、扱いやすいです」と工務担当の藤江保明氏（顔写真）は話す。



雨に濡らさないようパネル化で現場作業を減らす

### 短工期で構造的に強い 2×4

最近では、価格だけでなく、工期や性能など木造の魅力が総合的に評価されてきた。「木造は台風の際に揺れると沖縄ではいわれますが、当社の建て主からはそういう声はなく、2×4 工法は構造的に強いという印象です」と藤江氏。デザイン性が高い住宅を手が届く価格で実現できること、適切な施工によって断熱性能が上げられるなど、2×4 工法の優位性は多い。RC 造の印象が強い建て主は、2×4 工法の工期の短さに驚くという。カナダ産 OSB を採用することで必要なサイズが安定して調達できるようになり、家づくりがスムーズに進むようになった。カナダ産 OSB が今後も沖縄の木造の品質向上に寄与することは間違いない。



カナダ産 OSB で高品質の躯体を実現

### 株式会社エッジ

本社：沖縄県島尻郡与那原町字東浜 92-1  
代表：秦 康展（代表取締役）  
HP：www.edge-okinawa.co.jp  
電話：098-882-0039  
2015 年 12 月 7 日に創業。センチュリー 21 に加盟し、不動産売買と木造住宅建築を手掛ける。